

ここでは、家族や本人がはじめに「おかしい」と気づいたのは、どのような状況からだったのかについての語りを紹介します。

認知症の初期症状としてよくいわれるのは、「何度も同じことを言ったり聞いたりする」「ものの名前が出てこない」「以前はあった関心や興味が失われる」「置き忘れやしまい忘れが多くなる」などです。

### ○家族・知人が異変に気づく

こうした症状に最初に気づくのは、多くの場合は家族など身近に暮らしている人です。しかし、異変に気づいても、認知症を疑い、すぐに受診を勧める人は少数派で、一時的なことだろうとか、年齢相応の問題と思いい、あえて受診させようとは思わなかった、というケースも多いようです。

毎日一緒にいるからこそ異変に気づかず、親族や職場・近所の人などから指摘を受けて気づくケースもありますが、認知症を疑うような決定的な出来事があつた人も少なくありません。

夫がATMの暗証番号を  
忘れて、お金を下ろせ  
なかつたことがあつたが  
「そんなこともあるわ」  
という感じだった

|||||||  
家族が異変に気づく  
|||||||

語り

001

最初は病気の子想なんかしてなかったんですが、主人の日記に「もしかしたら、あの簡単な漢字が書けないのは、認知症じゃないか」って、1行書いてありました。彼は脳外科医ですから、やっぱり少しは見当はついてたのかもしれないですね。

私なんかは全然わからなくて。主人がたまにちょっと駅の出口を間違えて帰ってきたりとか、ATMで暗証番号を忘れてお金が下ろせなかったりとか、電話がうまくかけられなかったとか、そういうのを見ても、「これぐらいは許容範囲」というか……。鈍いし、予想もしてないことだから、「まあ、そんなことなんか、あることだわ」って感じで、全然気がつかなかったですね。

——ご主人はその段階から、「もしかしたら」って思っ、日記に記されていたのですか？

ええ、そうですね。それに、漢字が書けないっていうことが——難しい漢字は、パソコンばかり使ってるから書けないとしても、やさしい漢字が書けない、っていうことに対して、本人はすごくいらだちというか、不安をもっていたんじゃないかと思います。

介護者08 (プロフィール：p.600)



用もないのに父から  
たびたび電話があつた  
今から思うと  
認知症の始まりだつた  
のかもしれない

|||||||  
家族が異変に気づく  
|||||||

語り

## 002

異変に気づいたときはね、まあ、今から思うと、ってことなんですけど、そのときは、やっぱりわからなかったんです。両親も年とっていきますし、自分自身もね、昔に比べるとだんだんもの忘れが激しくなってるね。外出するにも（忘れものを取りに）3回も4回もうちを出入りしたりしている自分がいるもんですから、単純に「両親も、もう年齢的なものかな」って、そのときは思っていました。

ですけど、私、会社に勤めていたんですけども、父がしょっちゅう会社に電話してくるんです。内容はたいしたことなくて、「元気が。今度いつ帰ってくるのか」とかね、子どもたちの近況を聞く、まあ、そういう内容なんですけれども、午前中にかかってきて、また午後にかかってきてね。勤めているもんだから、「迷惑だな」と思っていたわけなんです。

それで、あまり頻繁にかかってくるから、実家へ戻って会社の電話番号を削除したんです。だけれども、頭の中に記憶していたみたいで、（電話番号を）まっ黒に塗りつぶしたにもかかわらず、相変わらず会社に電話がかかってくるんですね。

介護者01（プロフィール：p.598）

